



## 2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東  
コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888  
半期報告書提出予定日 2025年8月8日 配当支払開始予定日 ー  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前中間利益		中間利益		親会社の所有者に帰属する中間利益		中間包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	16,833	19.0	628	23.8	371	△22.2	300	△14.6	287	△40.4	296	△16.7
2024年12月期中間期	14,150	△0.3	508	△68.1	477	△69.3	352	△71.6	481	△61.2	355	△71.2

	基本的1株当たり中間利益		希薄化後1株当たり中間利益	
	円	銭	円	銭
2025年12月期中間期	15	26	15	26
2024年12月期中間期	25	64	25	64

(注) 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年12月期中間期の連結経営成績（累計）については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分		親会社所有者帰属持分比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	53,732		22,047		22,027		41.0	
2024年12月期	54,274		21,939		21,933		40.4	

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2024年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00	0.00
2025年12月期（予想）	—	0.00	—	10.00	10.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	35,000	12.6	1,500	△46.5	1,300	△48.0	69	08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 16「2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記 (5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年12月期中間期	18,967,410株	2024年12月期	18,967,410株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	148,344株	2024年12月期	148,224株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年12月期中間期	18,819,104株	2024年12月期中間期	18,785,030株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 7「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	7
2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記 .....	9
(1) 要約中間連結財政状態計算書 .....	9
(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書 .....	11
(3) 要約中間連結持分変動計算書 .....	13
(4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	14
(5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	16
(継続企業の前提に関する注記) .....	16
(会計方針の変更) .....	16
(セグメント情報) .....	17
(重要な後発事象) .....	19

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があります。先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、状況に応じて機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

総合エンターテインメント事業では、アイドルグループやバンドなどの所属アーティストによる大型イベントの開催やライブなどのほか、そのほかのタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開しております。

映像制作事業につきましては、既存のテレビ番組の安定的な制作のほか、新規事業の開始に加え、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を進捗させております。

広告代理店事業につきましては、既存の広告代理案件の進捗に加え、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を中心に各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めております。

物流事業につきましては、運送及びアミューズメント機器を中心とした一般貨物の保管・倉庫事業を展開し、既存取引先との安定稼働に努めております。

また、このような事業環境下、5月1日に東京六本木にて「Empire Steak House Roppongi」を運営する株式会社Red List(以下「RL」という。)の株式を取得し子会社化しております。

さらに、P. 7「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」でも後述いたしますが、玉木宏氏や高岡早紀氏らが所属する芸能プロダクション事業を営む株式会社アオイコーポレーション(以下「AOI」という。)の株式を取得することで8月1日より子会社化しており、さらなる事業体制の強化を図っております。

以上の結果、当中間連結会計期間における業績は、売上収益16,833百万円(前年同期比19.0%増)、営業利益628百万円(同23.8%増)、税引前中間利益371百万円(同22.2%減)、親会社の所有者に帰属する中間利益287百万円(同40.4%減)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

## &lt;セグメント別概況&gt;

## 〔総合エンターテインメント事業〕

## (ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト、株式会社ノース・リバー、株式会社A.M. Entertainment、b i j o u x株式会社がアーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動実績は、後記「別表①(主要アーティスト活動状況)」のとおり順調な活動を行っております。そのほかのアーティストやタレントの活動においては、若月佑美、小栗有以、生駒里奈、鈴木絢音、古畑奈和、江籠裕奈、北野瑠華、高畑結希、秋好美桜、山本かりん、土井レミイ杏利などが、ドラマやテレビ番組への出演のほか、各種イベント、企業とのタイアップ企画、写真集の出版など、様々な方面で活躍しております。

## (デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、主に株式会社10ANTZが、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションゲームアプリの企画・開発・運営を行っております。2025年4月にリリースから9周年となった乃木坂46公式の「乃木恋」や、日向坂46公式の「ひなこい」、櫻坂46公式の「サクコイ」など、所謂坂道グループの公式ゲームアプリ等を展開しております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益6,923百万円(同1.7%減)、セグメント利益800百万円(同5.8%増)となりました。

## 〔映像制作事業〕

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONS(以下「UP」という。)、TOKYO ROCK STUDIO株式会社(以下「TRS」という。)、株式会社macaroniが、人気バラエティ番組やグループ内所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作及び製作委員会への出資に加え、映像編集作業を行うポスプロ事業を行っております。映像制作における主な成果(レギュラー化やドラマ、映画製作等)は、後記「別表②(主な制作実績)」のとおりであります。

また、株式会社TechCarryでは、機材レンタル事業やデジタイズ事業を展開しており、着実に実績を積み上げております。制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況を踏まえた人材の安定雇用を創出しており、引き続き堅実に実績を積み上げております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益3,103百万円(同1.3%増)、セグメント利益28百万円(同62.1%減)となりました。なお、セグメント利益につきましては、対計画比ではプラスで推移しており、粗利率でも対前年同期比1.0%減と、前期同等水準を維持、推移しておりますが、第1四半期に開始しましたCM制作事業に加え、第2四半期に開始しました配給事業ならびにスタジオ事業の運営に係る先行費用等を新たに計上したことに加え、一部制作案件が減少したことが、利益の押し下げ要因となっております。

## 〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。株式会社allfuzにて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブン-イレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて様々な取り組みを実施しております。広告代理店事業における主な実績は、後記「別表③(実施案件)」のとおりであります。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益2,987百万円(同25.0%減)、セグメント損失74百万円(前年同期はセグメント利益66百万円)となりました。なお、対前年同期比較によるセグメント利益の減少は、デジタル広告部門におけるクライアントの広告出稿に関わるコストの見直しの影響を受けたほか、既存の広告代理店事業において、広告案件の契約金額の下振れによる売上減少に加え、粗利率が5.0%程度悪化していることなどによります。

## 〔物流事業〕

同事業につきましては、株式会社トポスエンタープライズ(以下「TPO」という。)が、千葉、埼玉、大阪の3拠点を中心に全国への配送を行う運送事業及びアミューズメント機器を中心とした一般貨物の保管・倉庫事業を展開しており、既存の取引先を筆頭に、安定的な稼働により実績を積み上げております。

以上の結果、物流事業の業績は、売上収益2,672百万円、セグメント利益321百万円となりました。なお、当該事業につきましては、2024年12月期第4四半期より事業を開始しているため、当中間連結会計期間における前年同期比の記載はありません。

## 〔その他事業〕

同事業につきましては、当社が不動産賃貸事業を、TPOがアミューズメント向け景品や食料品関連を取り扱う卸売事業、宿泊施設の運営(1店舗:人工温泉施設)ならびにコンビニエンスストアの運営(2店舗:ミニストップ)を、また、RLの飲食事業を5月より取り込んでおります。

以上の結果、その他事業の業績は、売上収益1,145百万円(前年同期は売上収益56百万円)、セグメント利益34百万円(同42.8%増)となりました。なお、実績における増加要因につきましては、TPOの一部事業を2024年12月期第4四半期より取り込んでいることが、主な要因となります。

別表①(主要アーティスト活動状況)

アーティスト名	実施時期	内容:備考欄
SKE48	1月1日	SKE48劇場 2025年元日「新チーム発表&ご挨拶」
	1月23日	フジテレビ系「Tune」
	2月12日	日本テレビ「NEWS ZERO」
	2月18日	末永桜花 卒業コンサート ～おーちゃんのこと好きになっちゃった～
	3月3日	ミミフィュー 1stライブ「愛はまだ早いの」
	3月7日	日本テレビ「バズリズム02」
	3月12日	34thシングル「Tick tack zack」リリース
	3月24日	NHK BS「JOYNT POPS」
	3月25日	TBS「PLAYLIST」
	3月30日	荒井優希 卒業LIVE～Go for the Dream!!～
	4月30日	UP-T×AKB48 Group Special Live
	5月1日	「100%SKE48 vol.7」発売
	5月4日	30時間TV2025 ～春の大文化祭 SKE(サカエ)の桜はまだ満開!!～
	5月13日	7D2 10th Anniversary Live ～みんなですっと舞台いたい～
	5月23日	プリマステラ1/2? ふあいなるらいぶ
6月14日	テレビ愛知イベント「SKE48 ドキッ!いたずらだらけの大運動会」	
乃木坂46	1月15日	フジテレビ「週刊ナイナイミュージック」
	1月28日～30日	37th SGアンダーライブ
	2月3日	配信シングル「懐かしさの先」リリース
	2月22日、23日	与田祐希 卒業コンサート
	3月24日	日本テレビ系「DayDay」
	3月25日	NHK総合「放送100年企画 みんなのベスト紅白」
	3月26日	38thシングル「ネーブルオレンジ」リリース
	4月5日	38th SGアンダーライブ フジテレビ「MUSIC FAIR」 NHK「Venue101」
	4月7日	TBS「CDTVライブ!ライブ!」
	4月12日	DayDay. SUPER LIVE 2025
	5月17日、18日	13th YEAR BIRTHDAY LIVE
6月26日	中村麗乃 卒業セレモニー	
Novel bright	1月17日～3月7日	新曲「ワインディングロード」が主題歌に起用されたテレビ東京「法廷のドラゴン」が放送
	1月24日	新曲「ワインディングロード」デジタル配信
	3月15日	土岐プレミアム・アウトレット 20th Anniversary Novel bright Acoustic LIVE
	3月23日	ツタロックフェス 2025
	3月26日	「Novel bright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～ FINAL IN 姫路城 三の丸広場」Blu-ray & DVDリリース
	4月7日	新曲「カノーパス」デジタル配信
	4月12日～	Novel bright ARENA TOUR 2025 ～Winding Road～
	4月20日	MAIZURU PLAYBACK FES. 2025
	5月3日	JAPAN JAM 2025

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
Novel bright	5月10日	TOKYO METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2025
	5月21日	BLUE☆LIGHT SERIES 2025 Supported by nojima
	6月8日	CHAGU CHAGU ROCK FESTIVAL 2025
	6月13日	「サッポロ WITH BEER ホワイトエール」のテーマソングに「Sensation」が決定

## 別表②(主な制作実績)

分類	放送・公開 開始日等	番組名(補足)
バラエティ	1月5日	フジテレビ「千鳥の鬼レンチャン」新春3時間SP
	2月18日	TBS「THE神業チャレンジ」2時間SP
	2月22日	TBS「熱狂マニアさん!」2時間SP
	3月12日	フジテレビ「千鳥の鬼レンチャン」が4月から2時間番組に拡大されることを発表
	3月29日	TBS「オールスター感謝祭'25春」6時間半 生放送
	4月21日	BS-TBS「伊集院光の偏愛博物館」が2025年3月度ギャラクシー賞月間賞を受賞
	5月5日	テレビ朝日「今、行って食べたい!日本のご当地めし総選挙」3時間SP
	5月22日	フジテレビ「櫻井翔のワンナイトスタディ」
ドラマ	5月29日	テレビ東京「ひだまりが聴こえる」が第62回ギャラクシー賞「マイベストTV賞グランプリ」受賞
	6月30日～	縦型ショートドラマ「サクラさん」(SNS向け配信ドラマ)
映画	2月7日～ 公開終了	映画「ショウタイムセブン」全国公開
	4月4日～ 公開終了	映画「おいしくて泣くとき」全国公開
	5月9日	主演・福山雅治×大泉洋 映画「ラストマン」今冬公開決定

## 別表③(実施案件)

EC販売・ キャンペーン等開始日	案件名
2025年1月9日	「劇映画 孤独のグルメ」オリジナル小皿+ステッカー 他
2025年1月16日	HEAVY METAL SOUNDHOUSE 2024 公式グッズ
2025年1月17日	若月佑美 YUMI WAKATSUKI 2025CALENDAR発売記念グッズ 他
2025年1月22日	宙の鳴き声 オフィシャルグッズ販売
2025年1月24日	ANTHEM LIVE CIRCUS 2024 記念公式グッズ 他
2025年1月25日	乃木坂46 スリムプロテクションケース 他
2025年3月14日	小栗有以 2025.04-2026.03カレンダー(壁掛けver./卓上ver.)
2025年3月19日	SKE48 34thSG「Tick tack zack」公式グッズ 他
2025年3月25日	土屋太鳳カレンダー 2025-2026
2025年3月27日	STPR Family Festival!! 応援グッズセット
2025年4月1日	むぎ(猫)公式グッズ
2025年4月7日	純烈コンサート2025 全国ツアーグッズ
2025年5月7日	METROCK2025 公式グッズ
2025年6月21日	ポニーテールリボンズ ちょうど21周年Tシャツ販売

※販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当中間連結会計期間までの積み上げ案件を列举しております。

※広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び資本の状況

当中間連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて541百万円減の53,732百万円となりました。これは主として現金及び現金同等物が増加した一方で、有形固定資産、無形資産、その他の金融資産及び棚卸資産が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて649百万円減の31,685百万円となりました。これは主として契約負債、社債及び借入金が増加した一方で、営業債務及びその他の債務、その他の金融負債が減少したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて108百万円増の22,047百万円となりました。これは主として利益剰余金が配当金の支払いにより減少した一方で、親会社の所有者に帰属する中間利益の計上により増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて623百万円増加し4,734百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,276百万円の資金の増加(前年同期比61.7%増)となりました。これは主として減価償却費及び償却費の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、505百万円の資金の増加(前年同期は3,797百万円の資金の減少)となりました。これは主として被担保債権の回収により資金が増加したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,158百万円の資金の減少(前年同期は1,504百万円の資金の増加)となりました。これは主として長期借入れによる収入により資金が増加した一方で、利息及び配当金の支払、長期借入金の返済、リース負債の返済により資金が減少したことによるものであります。



## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期における通期連結業績予想につきましては、2025年2月13日に公表しているとおり、売上収益35,000百万円、営業利益1,500百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,300百万円と見込んでおります。売上収益につきましては、2024年10月1日付けで物流事業及び保管・倉庫事業等を展開しているTPOを連結子会社化しており、同社収益の年間寄与により前期比12.6%の増加を見込んでおります。営業利益以降につきましては、2024年12月期にTPOの株式取得に伴い負ののれん発生益2,551百万円を計上したことなどにより、前期比では営業利益46.5%の減少、親会社の所有者に帰属する当期利益48.0%の減少を見込んでおります。

このような状況下、新規M&Aの取り組みによる組織体制の強化の一環として、5月1日にステーキハウスの飲食店の経営・運営代行及びコンサルタント事業等を展開するRLを子会社化したほか、8月1日には俳優でアーティスト・クリエイターの顔も持つ玉木宏氏や高岡早紀氏、渡辺邦斗氏、今後有望な新人らが所属する芸能プロダクションのAOIを子会社化しており、さらなる事業規模の拡大へ向けて取り組んでおります。各セグメント別の取り組み事項は以下のとおりであります。

## 〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、AOIのグループインに伴い所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手の所属は、総勢で56名(グループは1名としてカウント：業務提携含む)となりました。

2025年12月期第3四半期以降における大型イベント等につきましては、乃木坂46が7月5日の北海道公演を皮切りに「真夏の全国ツアー2025」全7都市16公演をスタートさせており、9月4日からは4日間開催となる恒例の明治神宮野球場公演を予定しているほか、7月30日には39枚目のシングルとなる「Same numbers」をリリースしております。SKE48は、恒例となっている夏のツアー「SKE48 SUMMER Tour 2025」を7月5日から7都市15公演をスタートさせているほか、9月24日には35枚目のシングル「Karma」のリリースを予定。また、10月11、12日に17周年記念コンサート開催を予定しております。Novelbrightにつきましては、同グループ初の全国アリーナツアーとなる「Novelbright ARENA TOUR 2025 ~Winding Road~」7会場10公演を開催しており、8月17日の兵庫神戸ワールド記念ホールで千秋楽を迎えます。そのほか、6月24日から発売されている「サッポロ WITH BEER ホワイトエール」のテーマソングに、同商品をイメージして書き下ろされたタイアップソング「Sensation」が再起用されたほか、各地方都市の音楽フェスや番組出演などを通して、各種メディアとの取り組みも引き続き強化してまいります。

俳優やタレント等につきましては、AOIのグループインによって、さらなる体制の強化が図られております。玉木宏が出演している映画「雪風 YUKIKAZE」が8月15日から全国公開されるほか、高岡早紀は2025年大河ドラマ「べらぼう〜蔦重栄華乃夢斬〜」へ出演していることに加え、渡辺邦斗はTBS赤坂ACTシアターで公演されている舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」で2025年7月からの4年目新キャストとしてドラコ・マルフォイを演じるなど、多方面で活躍しております。そのほか、若月佑美、生駒里奈、小栗有以、鈴木絢音、古畑奈和、江籠裕奈、高畑結希、北野瑠華、秋好美桜、山本かりん、土井レミイ杏利などの活動の充実を図っており、引き続き活躍する場の拡大に努め、オーディションなどを含む新規コンテンツの発掘と開発にも注力してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、運営する既存ゲームアプリにおける運営強化や選択と集中による収益力の改善に努めることにより、グループシナジーなどの展開及び発展を図ってまいります。

## 〔映像制作事業〕

現在の主流であるバラエティ番組では、自社の企画・制作力を活かして獲得したレギュラー番組14件の制作に携わっており、その実績が放送各局でも評価されていることから、一部レギュラー番組の放送枠が拡大したほか、映画製作では、今年の冬に公開を予定している福山雅治氏、大泉洋氏の主演映画「ラストマン」の製作に協力するなど、様々な案件に携わることで、着実に実績を積み上げております。

このような中、第1四半期でもお知らせしているとおり、「CM制作事業」への本格参入や、「配給事業」の開始をお知らせしております。配給事業に係る監修やアドバイザーを目的として、株式会社KADOKAWAにおいて代表取締役副社長などを歴任した井上伸一郎氏が代表社員を務める、合同会社ENJYUと顧問契約を締結しております。これにより、今後の映像制作事業における企画から制作、その後の配給までを一貫通貫で実施できる事業体制の強化を図ることで、さらなる収益構造の改革を行っております。

また、近年ではスマートフォンとSNSの普及によって、縦型の動画コンテンツの需要が急速に伸びております。その代表格が「縦型ショートドラマ」とされており、民放の放送局からも同コンテンツ専用のアプリがリリースされるほど、Z世代からも高い評価を受けるコンテンツに成長しつつあります。この度、UPの製作第一弾の縦型ショートドラマ「サクラさん」を6月30日(月)20時よりYouTube、TikTok、Instagramにて配信を開始いたしました。

さらに、当社グループでグローバル映像制作を手掛けるTRSでは、4月1日付けで、千葉県富津市にある廃校を活用した撮影スタジオ「TOKYO ROCK STUDIOアマハプラス富津」を自治体などの協力を得て開設し、運営を開始しております。本件は、国内において不足している撮影スタジオ不足の問題解決に貢献し、映像制作を通じて地域の活性化に寄与することを目指しており、既に国内外の映画・ドラマ制作会社から多数の問い合わせを受けるなど好調なスタートを切っております。このような取り組みを行う中、TRSは世界で最もハイレベルなクライアント向けに、実写撮影のネットワークサービスを提供している、世界トップクラスのプロダクションサービス会社から厳選されたコミュニティである“PSN”(※)とのパートナーシップを締結いたしました。TRSは、日本唯一のPSNメンバーとして選定されましたので、PSNを通じて世界中の制作プロデューサーからの注目度を高め、日本全体のライン

プロダクションのボトムアップとなるよう、引き続き撮影ロケーションの拡大や撮影誘致を加速させていきます。

※PSN (Production Service Network)

PSNは、世界50の異なる地域で、それぞれの地域から“1社”のみを独占的に審査し、パートナーとして迎えています。これにより、合計100カ国以上で、撮影・美術・衣装など制作実務に関わる包括的な「ピロー・ザ・ライン」サービスを提供する、広範囲かつ深い経験を持つネットワークを形成しています。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告部門につきましては、YouTubeをはじめ、TikTokやInstagramなどのSNS関連のデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開してまいります。今後の新たな分野にも裾野を広げることを目的として、当中間期までに人員体制を従来への倍の規模にまで増強し、さらなる売上・販路拡大を図っております。

広告代理店部門につきましては、セブン・イレブン・ジャパンを中心に優良案件を獲得していくことに加え、所属あるいは関係するアーティストなどの広告案件を含めた各種活動を引き続きサポートしてまいります。また、既存のグループ内コンテンツを活用した各種イベントの企画・提案・運営を行っており、商業施設におけるライブ開催や、SNSとの連動企画等を通して、様々な企業との取り組みを展開してまいります。

今後につきましても、SNS向けの広告媒体に強い若い世代を中心とした制作チームを有するデジタル広告部門と、クライアントと芸能事務所との強いパイプを有する広告代理店部門とのグループ間の強みを生かした積極的な営業戦略によって、大小を問わず様々な案件に携わることで、後半以降の巻き返し及び事業規模の拡大に努めてまいります。

〔物流事業〕

主に、TPOにおいて商品・商材を全国に運搬する運送事業、全国のパチンコホールが保有するアミューズメント機器や一般貨物を預かる保管・倉庫事業を展開しております。

運送事業では、千葉、埼玉、大阪の主要3拠点を中心に展開しておりますが、国内各地の配送会社との強固なパートナーシップにより、全国への配送を可能とする流通ルートを有しております。倉庫事業では、パチンコホールのアミューズメント機器を中心に15万台以上の保管能力を有し、“24時間365日監視”“運送車両へのGPS搭載”“専用パレットによる入出庫管理”などの独自の最先端管理システムによって、「利便性」「品質管理」「安全性」の3つの価値を提供することで、安定的な事業展開を図ってまいります。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。また、TPOにおいて人工温泉施設としてのホテル事業に加え、コンビニエンスストアの運営などを行っていることのほか、8月1日付けで、卸売事業を展開しておりました株式会社TYG商事をTPOが吸収合併しており、事業のスリム化を図ることによりまして、収益力の強化に努めております。

さらに、5月よりグループインしております「Empire Steak House Roppongi」の飲食事業につきましても、仕入れ食材の価格変動への対応のほか、新メニューの開発・提供、その他販促を強化することで、集客力の強化に努めてまいります。

なお、当社グループは、多様なIP・コンテンツの保持ならびに各種企画の制作及び興行などを展開し、メディアを通じて情報発信を行う事業組織として、昨今の同種業界のコンプライアンスや内部統制体制に関する問題等を踏まえ、情報を発信する立場としての責任を改めて認識するとともに、必要に応じて適宜適切な行動・対応に努めてまいります。

また、足元の経済動向につきましては、物価高に伴う賃上げ率の上昇が継続的な負担となるような国内市況と、国際的な問題として米国による相互関税の発動によって、株式市場の世界的な株安など、様々な国や地域、業界を通じて個人消費に影響を及ぼす可能性があることから、当社グループにおける各事業セグメントにおきましては、それぞれの業界動向に注視しつつ、市況を見据えた事業運営に努めてまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

## 2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約中間連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	4,110,927	4,734,137
営業債権及びその他の債権	4,636,082	4,522,181
その他の金融資産	688,444	726,875
棚卸資産	543,162	391,912
その他の流動資産	442,097	361,753
流動資産合計	10,420,713	10,736,860
非流動資産		
有形固定資産	23,226,335	22,791,045
のれん	5,637,795	5,831,946
無形資産	1,251,003	1,074,089
投資不動産	3,300,604	3,184,826
持分法で会計処理している投資	7,785,152	7,795,979
その他の金融資産	2,287,326	1,974,951
繰延税金資産	233,186	232,332
その他の非流動資産	131,912	110,565
非流動資産合計	43,853,316	42,995,737
資産合計	54,274,030	53,732,597

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	4,576,764	4,044,451
社債及び借入金	1,205,913	1,246,433
その他の金融負債	1,854,889	1,824,570
未払法人所得税等	188,182	123,538
引当金	139,705	221,388
契約負債	286,972	421,765
その他の流動負債	560,145	525,513
流動負債合計	8,812,574	8,407,662
非流動負債		
社債及び借入金	3,123,483	3,232,045
その他の金融負債	18,556,197	18,163,104
長期従業員給付	455,706	496,173
引当金	908,245	954,637
繰延税金負債	478,757	429,654
その他の非流動負債	—	1,935
非流動負債合計	23,522,390	23,277,551
負債合計	32,334,964	31,685,214
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,200,758	14,200,758
自己株式	△132,744	△132,831
その他の資本の構成要素	73,121	68,753
利益剰余金	7,699,478	7,798,450
親会社の所有者に帰属する持分合計	21,933,064	22,027,580
非支配持分	6,001	19,802
資本合計	21,939,065	22,047,383
負債及び資本合計	54,274,030	53,732,597

(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書  
(要約中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上収益	14,150,933	16,833,064
売上原価	11,866,790	13,825,930
売上総利益	2,284,142	3,007,134
販売費及び一般管理費	2,349,333	2,836,090
持分法による投資利益	575,015	310,826
その他の収益	17,327	170,139
その他の費用	18,996	23,125
営業利益	508,155	628,885
金融収益	6,880	23,845
金融費用	37,426	281,104
税引前中間利益	477,609	371,625
法人所得税費用	125,186	70,660
中間利益	352,422	300,964
中間利益の帰属		
親会社の所有者	481,634	287,163
非支配持分	△129,211	13,801
中間利益	352,422	300,964
1株当たり中間利益		
基本的1株当たり中間利益(円)	25.64	15.26
希薄化後1株当たり中間利益(円)	25.64	15.26

## (要約中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間利益	352,422	300,964
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金 融資産	3,523	△4,368
純損益に振り替えられることのない項目合計	3,523	△4,368
税引後その他の包括利益	3,523	△4,368
中間包括利益	355,946	296,596
中間包括利益の帰属		
親会社の所有者	485,157	282,795
非支配持分	△129,211	13,801
中間包括利益	355,946	296,596

## (3) 要約中間連結持分変動計算書

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2024年1月1日時点の残高	92,450	14,667,114	△440,809	73,945	5,564,566	19,957,267	△437,703	19,519,563
中間利益					481,634	481,634	△129,211	352,422
その他の包括利益				3,523		3,523		3,523
中間包括利益合計	—	—	—	3,523	481,634	485,157	△129,211	355,946
連結子会社の増加による非支配持分の増加						—	211,102	211,102
剰余金の配当					△369,504	△369,504		△369,504
自己株式の取得			△1,849			△1,849		△1,849
自己株式の処分		△2,297	310,579			308,281		308,281
支配継続子会社に対する持分変動		△645				△645	△619	△1,265
所有者との取引額合計	—	△2,942	308,729	—	△369,504	△63,717	210,482	146,764
2024年6月30日時点の残高	92,450	14,664,171	△132,079	77,468	5,676,696	20,378,706	△356,432	20,022,274

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2025年1月1日時点の残高	92,450	14,200,758	△132,744	73,121	7,699,478	21,933,064	6,001	21,939,065
中間利益					287,163	287,163	13,801	300,964
その他の包括利益				△4,368		△4,368		△4,368
中間包括利益合計	—	—	—	△4,368	287,163	282,795	13,801	296,596
剰余金の配当					△188,191	△188,191		△188,191
自己株式の取得			△87			△87		△87
所有者との取引額合計	—	—	△87	—	△188,191	△188,278	—	△188,278
2025年6月30日時点の残高	92,450	14,200,758	△132,831	68,753	7,798,450	22,027,580	19,802	22,047,383

## (4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間利益	477,609	371,625
減価償却費及び償却費	610,564	1,216,642
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△58,232
受取利息及び受取配当金	△1,392	△5,289
支払利息	27,461	267,373
持分法による投資損益(△は益)	△575,015	△310,826
固定資産売却損益(△は益)	—	△15,132
固定資産除却損	13,620	21,494
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	5,307	△11,369
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	175,089	122,481
棚卸資産の増減額(△は増加)	△183,593	171,098
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△193,086	△543,286
契約負債の増減額(△は減少)	268,005	134,637
預り金の増減額(△は減少)	△40,277	△81,613
引当金の増減額(△は減少)	56,545	91,063
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	11,466	40,466
その他	△21,634	38,839
小計	630,671	1,449,974
法人所得税等の支払額	△30,966	△182,447
法人所得税等の還付額	189,793	9,297
営業活動によるキャッシュ・フロー	789,498	1,276,825
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	450,000	△60,000
有形固定資産の取得による支出	△42,796	△35,628
有形固定資産の売却による収入	—	5,089
無形資産の取得による支出	△670	△600
投資不動産の取得による支出	△1,885,577	△19,914
投資不動産の売却による収入	—	80,352
投資有価証券の取得による支出	△3,000	—
出資金の払込による支出	△47,175	△6,445
保険積立金の解約による収入	—	7,153
敷金保証金の差入による支出	△7,162	△103,934
敷金保証金の回収による収入	102,065	30,579
資産除去債務の履行による支出	△23,050	△14,000
利息及び配当金の受取額	371,392	303,901
被担保債権の取得による支出	△1,548,092	—
被担保債権の回収による収入	—	556,385
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,017,553	△183,286
持分法で会計処理している投資の取得による支出	△160,000	—
その他	13,888	△54,487
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,797,731	505,165



(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,341	△55,919
長期借入れによる収入	2,353,000	650,000
長期借入金の返済による支出	△452,160	△495,852
社債の償還による支出	△14,000	△14,000
自己株式の取得による支出	△1,849	△87
自己株式の売却による収入	309,841	—
利息及び配当金の支払額	△359,457	△442,693
リース負債の返済による支出	△325,873	△771,890
子会社の再生債権回収による収入	—	104,074
子会社の再生債務弁済による支出	—	△76,390
子会社の別除権協定に基づく債務の弁済による支出	—	△56,023
その他	△2,810	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,504,350	△1,158,781
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,503,882	623,209
現金及び現金同等物の期首残高	5,084,034	4,110,927
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,580,152	4,734,137

## (5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (会計方針の変更)

当社グループの要約中間連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

また、当中間連結会計期間の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS会計基準		新設・改訂の概要
IAS第21号	外国為替レート変動の影響	通貨が他の通貨と交換可能でない場合の要求事項を明確化

上記基準書の適用による要約中間連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」、「物流事業」の4つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- |                  |   |
|------------------|---|
| 「総合エンターテインメント事業」 | : タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理<br>イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理<br>ゲームアプリ事業など        |
| 「映像制作事業」         | : 各種映像コンテンツの企画・制作<br>映像制作スタッフの養成及び派遣など  |
| 「広告代理店事業」        | : タレント・アーティスト等のキャスティング<br>デジタル広告及びプロモーションの企画・開発<br>インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など |
| 「物流事業」           | : 全国各地に物流ネットワークを展開する運送事業<br>アミューズメント機器・一般貨物の保管・倉庫事業                             |

## (2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。  
 なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	7,045,191	3,063,958	3,985,613	14,094,763
セグメント間収益	35,395	7,973	83,202	126,571
合計	7,080,587	3,071,931	4,068,816	14,221,335
セグメント損益(注)3 (営業利益)	756,532	75,628	66,466	898,627

金融収益

金融費用

税引前中間利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	56,169	14,150,933	—	14,150,933
セグメント間収益	—	126,571	△126,571	—
合計	56,169	14,277,504	△126,571	14,150,933
セグメント損益(注)3 (営業利益)	24,444	923,072	△414,916	508,155

金融収益 6,880

金融費用 37,426

税引前中間利益 477,609

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。  
 2. セグメント損益の調整額△414,916千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント損益は、要約中間連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。  
 4. 前連結会計年度において、㈱10ANTZは、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間連結会計期間の数値については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しが反映された後の金額によっております。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	物流事業	計
売上収益					
外部収益	6,923,708	3,103,352	2,987,278	2,672,784	15,687,123
セグメント間収益	24,595	9,851	30,300	50	64,797
合計	6,948,304	3,113,203	3,017,579	2,672,834	15,751,921
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	800,091	28,679	△74,703	321,536	1,075,604

金融収益

金融費用

税引前中間利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	1,145,940	16,833,064	—	16,833,064
セグメント間収益	1,661	66,459	△66,459	—
合計	1,147,602	16,899,523	△66,459	16,833,064
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	34,903	1,110,508	△481,623	628,885

金融収益 23,845

金融費用 281,104

税引前中間利益 371,625

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び卸売事業であります。

2. セグメント損益の調整額△481,623千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損益は、要約中間連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。